

令和 5 年（2023年）7 月30日

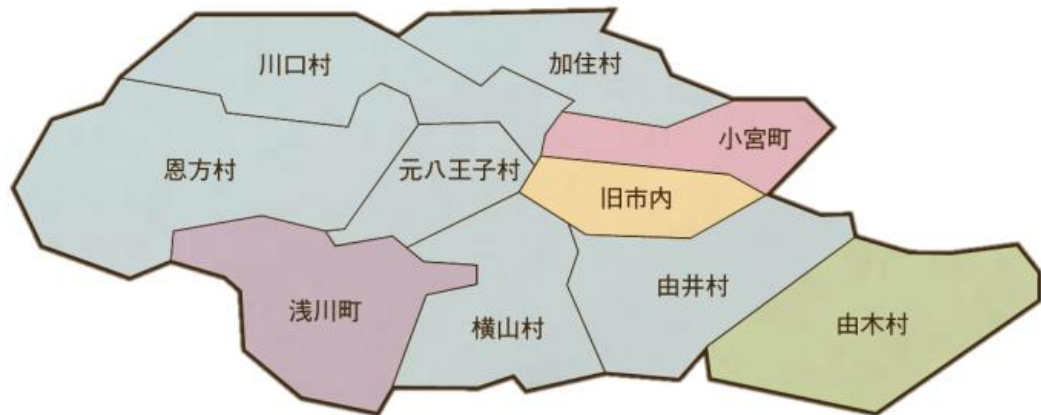
南大沢中学校区地域ワークショップ

八王子未来デザイン2040に基づく 地域づくりの推進について

総合経営部 経営計画課 地域づくり担当

まちの変遷

八王子市が誕生したとき、面積は7.3 km²、人口は約4万2千人でした。その後、町村合併を経て、今のまちになりました。

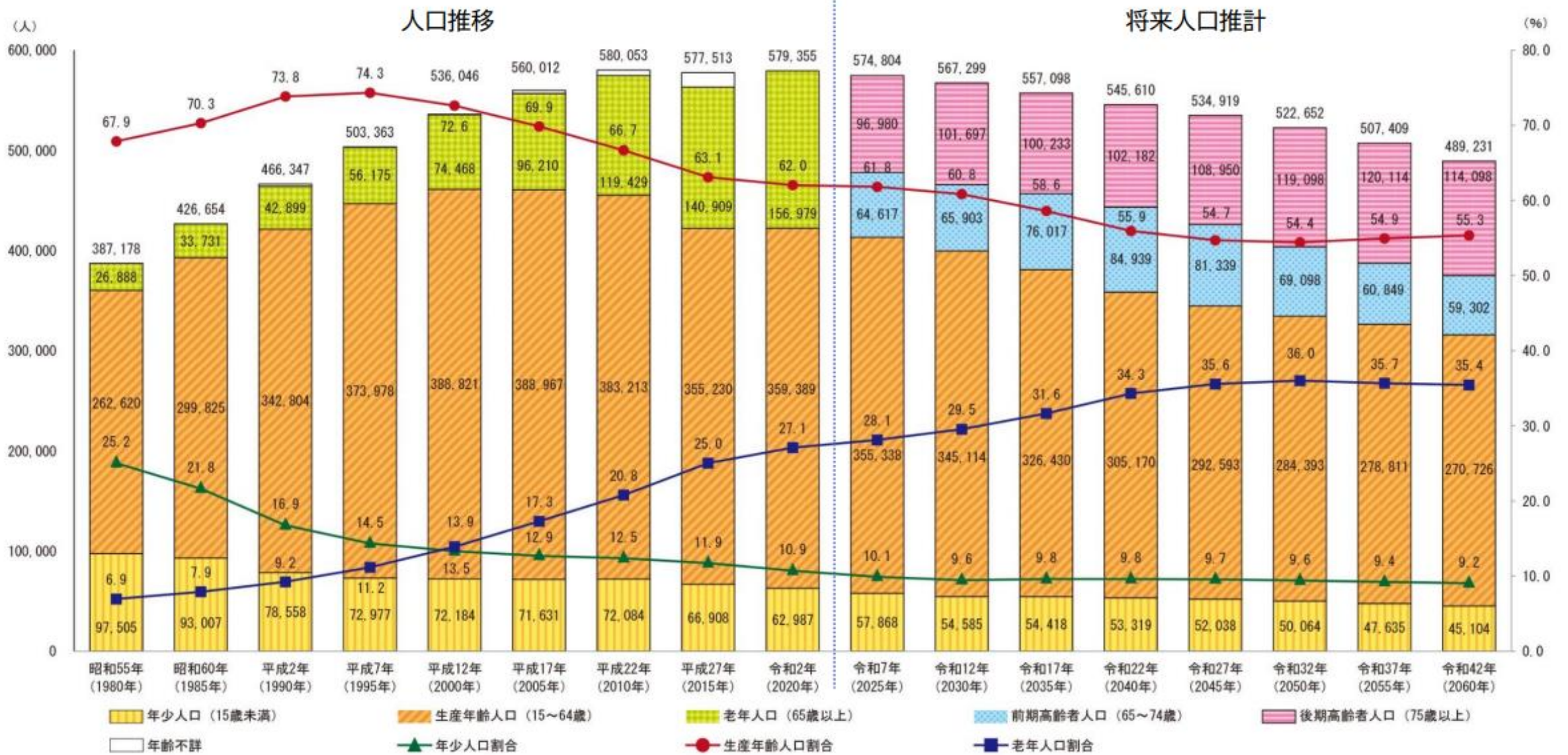


市域変遷の時期	市域変遷の経緯
大正6年(1917年)9月1日	市制施行。総人口 42,043人、世帯数 7,126世帯、総面積 7.3 km ²
昭和16年(1941年)10月1日	小宮町を編入。総人口 79,768人、総面積 19.88 km ²
昭和30年(1955年)4月1日	横山村、元八王子村、恩方村、川口村、加住村、由井村を編入。総人口 132,796人、総面積 139.60 km ²
昭和34年(1959年)4月1日	浅川町を編入。総人口 152,226人、総面積 166.06 km ²
昭和39年(1964年)8月1日	由木村を編入。総人口 193,346人、総面積 188.19 km ²
平成27年(2015年)3月6日	面積改定(国土地理院による精査の結果)により総面積 186.38 km ²

市の概要

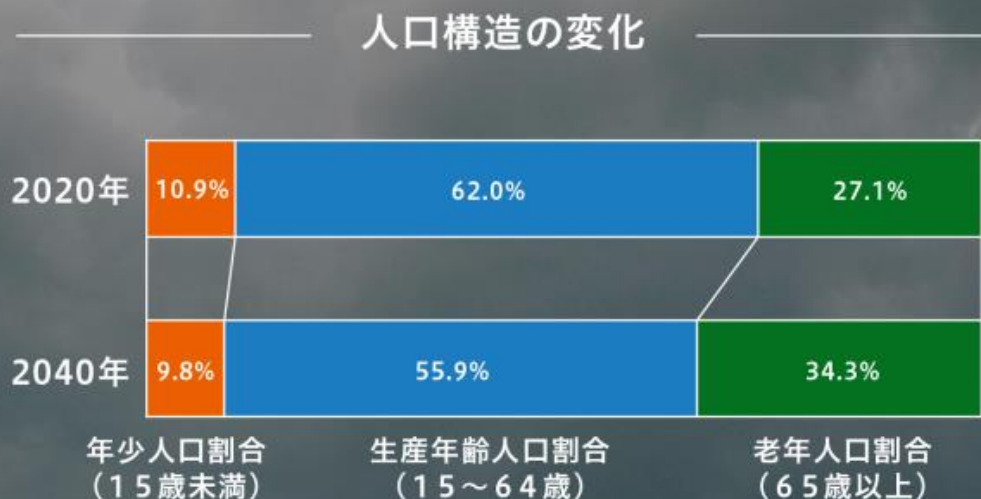
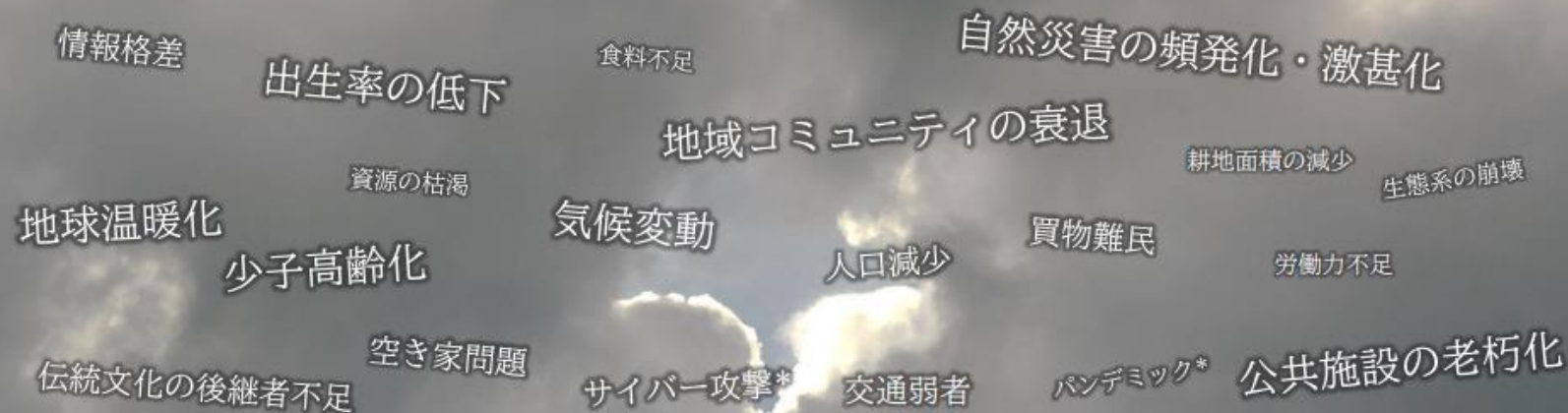
- 位置
東京都心から西へ約40 km、
新宿から電車で約40分の距離
- 面積
186.38 km²
都内では、奥多摩町に次ぐ2番目の大きさ
- 人口
579,355人(令和2年国勢調査結果)
- 市の木・花・鳥



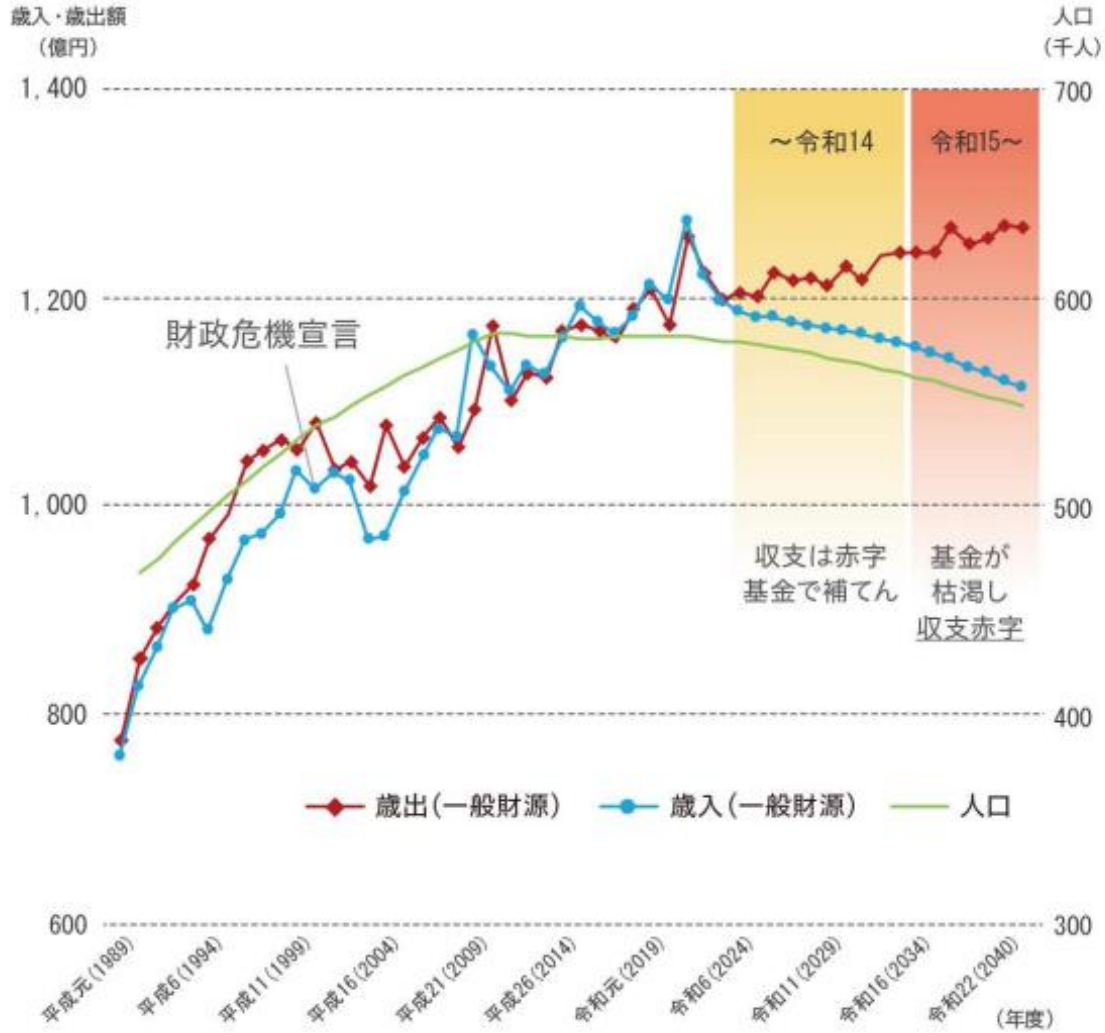


2040年を展望すると、厳しい社会環境の変化が見込まれ、
多くの課題が待ち受けています。

社会環境の変化や各分野の課題は、別冊（附属資料）に記載しています。



人口推計に基づく財政見通し（一般財源ベース）



実績

推計

基金・現金及び収支の内訳



実績

推計

「八王子未来デザイン2040」 (令和5年(2023年)3月策定)

- 未来を拓く原動力

「八王子ビジョン2022」

2つの
大きな柱

「人とひととの
支えあい、つながり」

市民・行政の互いの
役割と責任ある行動
による「協働」

継承

「八王子未来デザイン2040」

発展的に捉えた
「地域自治」「共創」

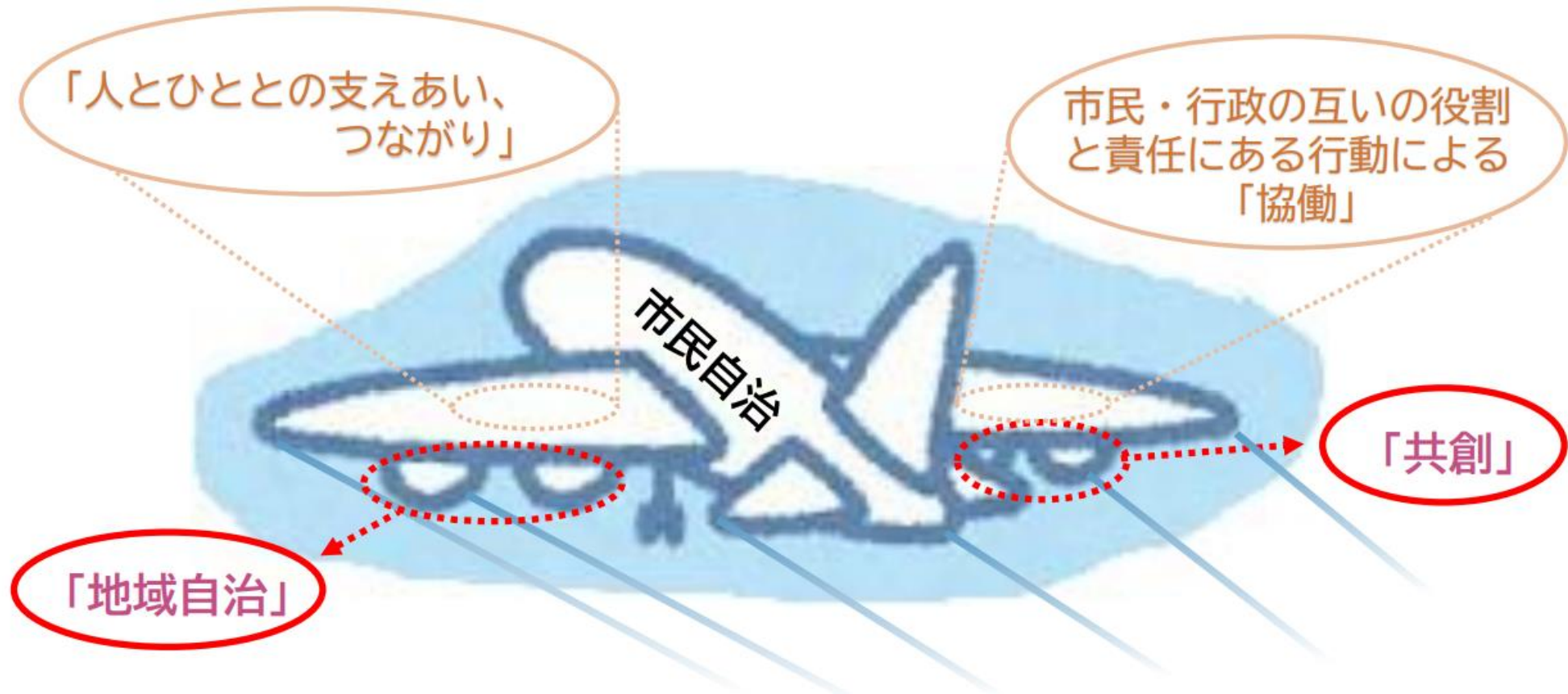
直面している
地域課題、社会
課題の解決には
欠かせないもの

✓
Point!

本市が多様な主体と一丸となり、
チャレンジしていく決意の証として掲げる。

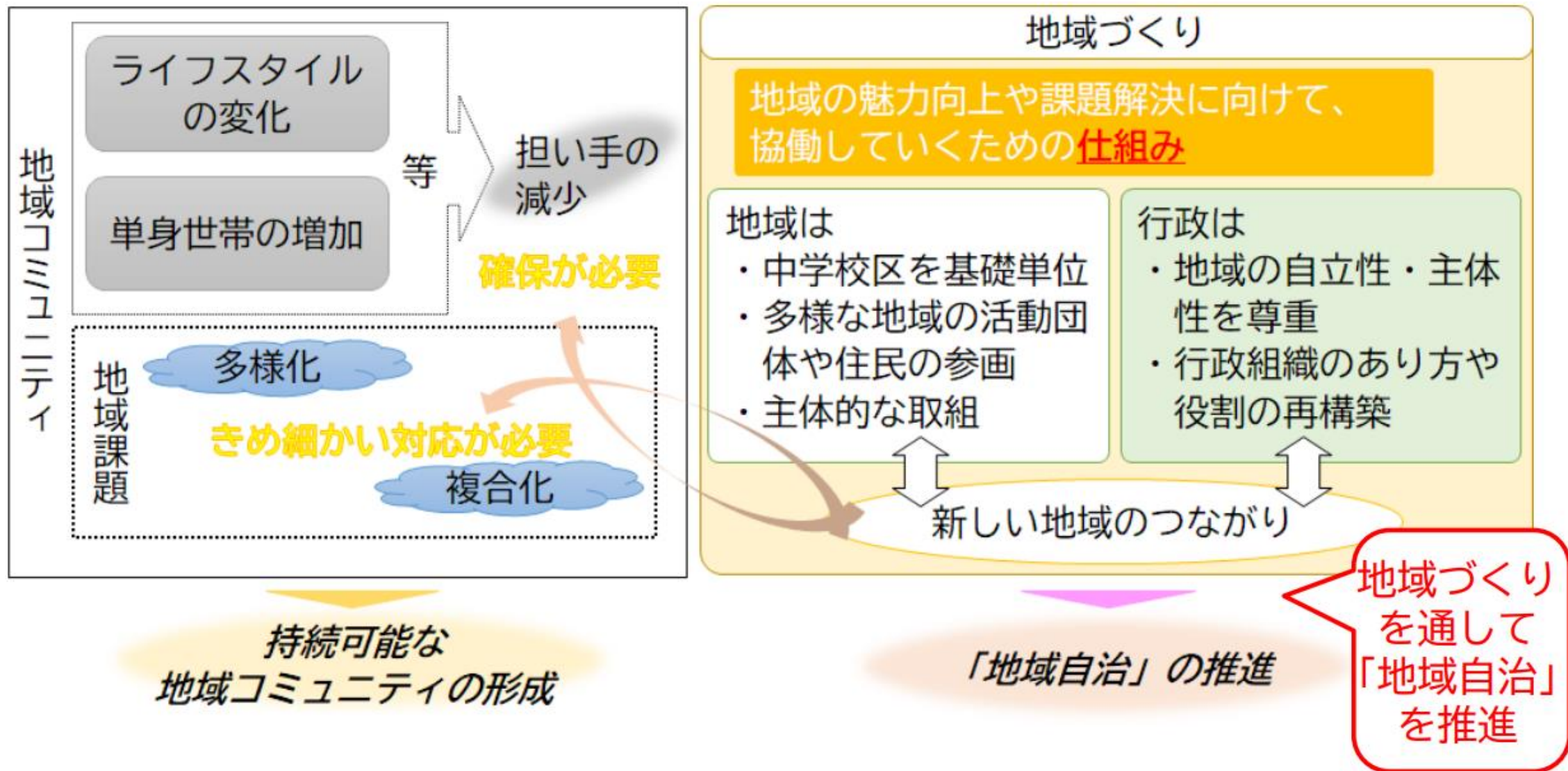
「八王子未来デザイン2040」 (令和5年(2023年)3月策定)

- 未来を拓く原動力



「八王子未来デザイン2040」 (令和5年(2023年)3月策定)

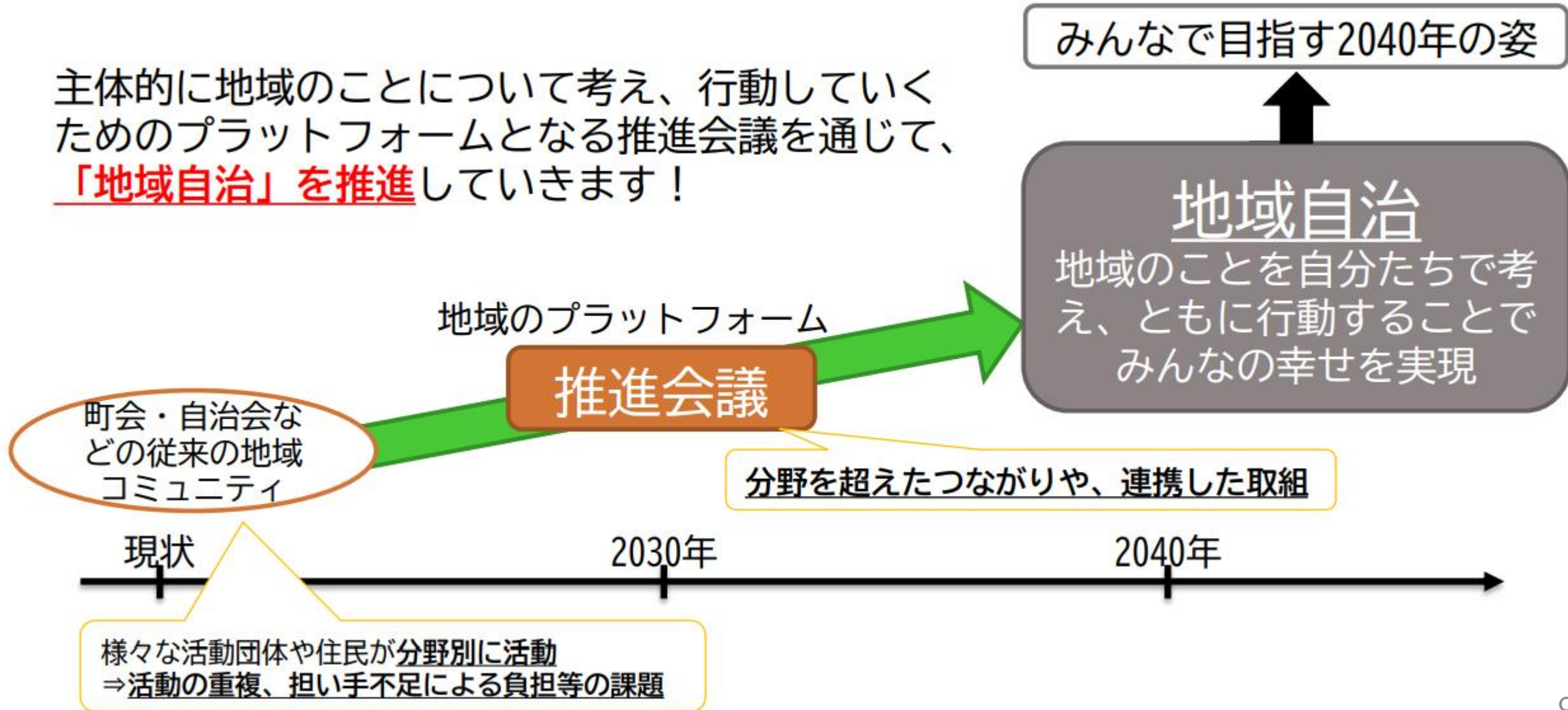
• 「地域自治」



「八王子未来デザイン2040」 (令和5年(2023年)3月策定)

- 「地域自治」と「地域づくり」

主体的に地域のことについて考え、行動していくためのプラットフォームとなる推進会議を通じて、**「地域自治」を推進**していきます！



「八王子未来デザイン2040」 (令和5年(2023年)3月策定)

- 「地域づくり」の未来像

地域にとっての未来像

多様なつながりをもとに安心して暮らせる地域社会

地域の自立性・主体性を発揮

将来にわたり暮らしを支える「新しい地域のつながり」



中学校区単位に設置を進めている
推進会議を母体実践

行政にとっての未来像

地域に対する支援体制の確立

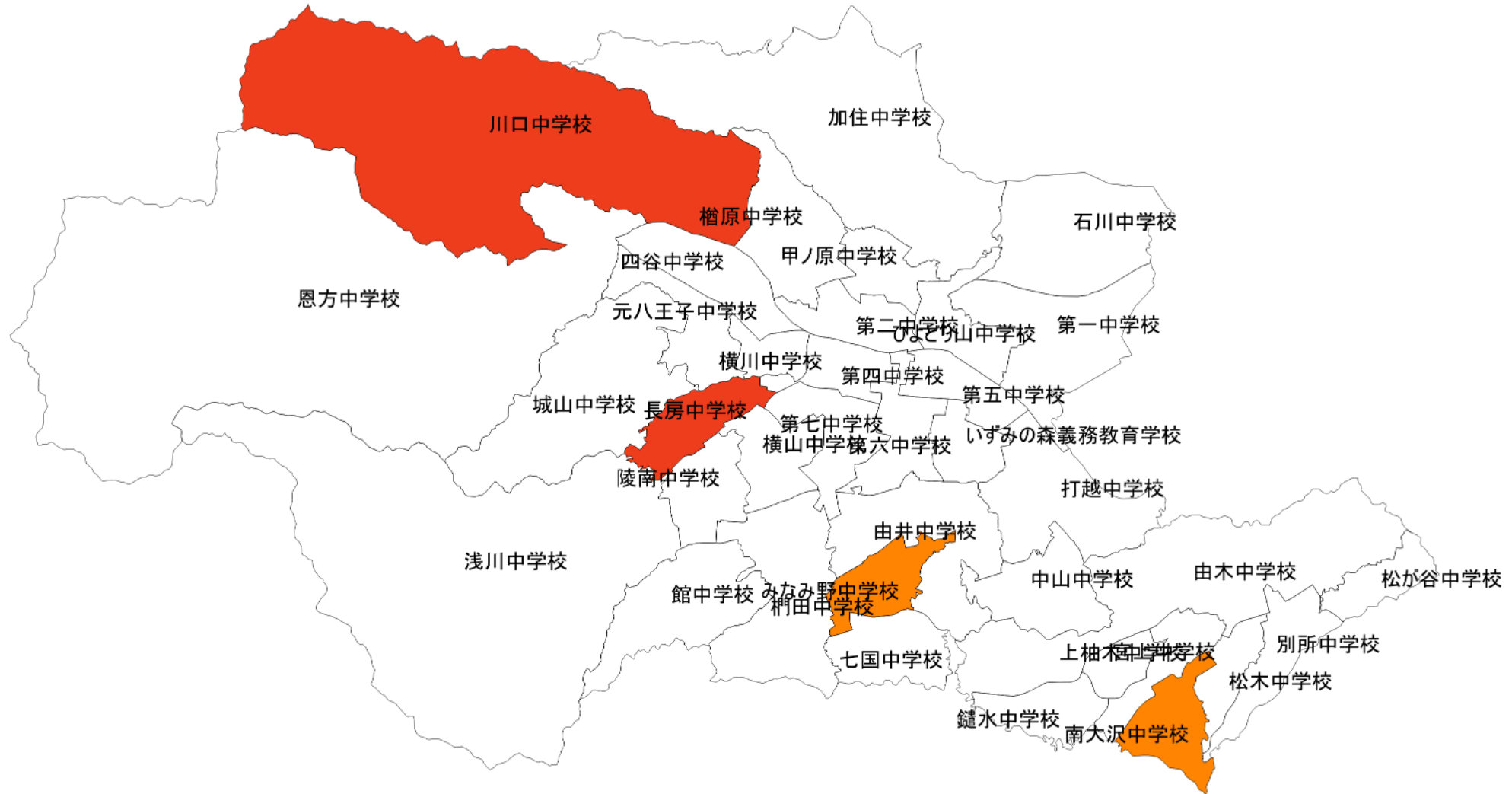
圏域や中学校区単位での多様な
施策・事業の展開

役割とニーズを踏まえた「地域
公共サービス」の実施



市役所(行政)の役割や体制を見直し
ながら、地域にとっての未来像を実現

地域づくり推進会議



地域づくり推進会議

- 先行2地区（みなみ野・南大沢中学校区）



地域づくりのステップ

1

地域の
プラットフォーム
構築

- 地域づくり推進会議の設置
- 地域の居場所の検討・整備
- 庁内体制の構築
- 地域と行政のつなぎ役の検討

2

着実な
ステップアップ

- 各地域の実情に応じた地域づくりの展開
- 財源確保に関する支援制度の検討
- 地域公共サービスについての検討

3

地域と行政の
課題解決に向けて

- 地域と行政の役割分担の検証・見直し
- 圏域や中学校区単位での施策展開

南大沢中学校区

地域づくり推進会議

- モデル地区（川口・長房中学校区）



モデル地区（川口・長房中学校区）地域づくり推進会議での検討

- これまで「やりたいこと」「できること」を検討し取り組んできた経験を活かし、「地域自治」※をキーワードに、川口・長房中学校区版の地域自治モデルを一緒に考える

※「地域自治」

「地域自治」＝『地域のことを自分たちで考え、ともに行動することでみんなの幸せを実現していくこと』

『「地域づくり」を通して（略）「地域自治」を推進し、地域と行政がともに未来へ向かって歩んでいきます』

（『八王子未来デザイン2040』P38 未来を拓く原動力（1）地域自治 より抜粋）

- 市の「地域づくりモデル地区」として「地域自治」の一つのモデルを構築していただき、行政側の制度や体制検討の材料（＝知見）をいただく。

モデル地区（川口・長房中学校区）地域づくり推進会議での検討

• 地域づくり推進計画を通じたプラットフォーム強化・行政との連携

- アクションプランの進捗把握
- アクションプラン推進を通じたプラットフォーム強化（アンケート等による定量化）
- 現在の**行政・地域課題（公共施設マネジメント等）**の検討連携

• 地域自治モデルの構築

- 令和5年12月～令和6年3月頃までを目途とする
- 各回30～60分程度、川口・長房中学校区版「**地域自治モデル**」を検討する
- 市側で用意した検討ワークをもとに、議論していただく

「地域自治」のための検討・整理事項の例

「何をする？」 「どういう組織？」

「代表者は？」 「参加者は？」 「予算は？」 「事務は誰が？」

「備品は？」 「場所は？」 「誰が参加？」 「会計監事は？」

「会計期間は？」 「市との関りは？」